

とができます。しかし、南部では技術研修や経験交流を実施しておらず、現状がどうなっているのか、わからない状態でした。そのため、ドンタップ省及びベンチェ省の農業普及センターに協力して頂き、2009年6月に現地を訪問し、現状を確認しました。そこで、既述したような状況が明らかになったのです。

2009年11月にベンチェ省ビンダイ郡の農業普及所がアヒル水稻同時作の評価会合を開催しました。参加した農家の皆さんからは、アヒルを放す密度や時期がわからないなど、技術面での疑問が多く出されました。そこで、2010年2月に古野隆雄さんと共にドンタップ省とベンチェ省を訪問し、日本で古野さんが取り組まれている合鴨農法について、紹介して頂きました。参加した農家からは「より詳しい技術研修を実施して欲しい」、「ベトナム国内の他省との経験交流がしたい」、といった意見が出されました。

こうした意見を元に、2010年からベトナム国内でアヒル水稻同時作を実践している人々の交流会や南部での技術研修などを実施していく予定です。また、無農薬栽培、或いは有機農法で育てたコメやアヒルの肉をどのように販売し、そのために何が必要なのか等についても各省の農家や農業関係者と現状を勘案しながら、具体策を練っていきます。

2010年2月にベンチェ省ビンダイ郡にて合鴨農法の技術を紹介する古野隆雄氏。



2009年11月ベンチェ省ビンダイ郡で行われた評価会合で技術について補足説明する農業普及所のトゥイエンさん。



Xin-chào!

STTの活動に関わっている人々

今回、ご紹介するのは、この人！ベンチェ省ビンダイ郡農業普及所スタッフのĐỗ Thị Ngaさん（52歳、2人の娘さんとご主人の4人家族）。Ngaさんの仕事について聞いてみました！



—どんな仕事をされているのですか？

Ngaさん「各村を周り、ビンダイ郡が取り組むプロジェクトの進捗状況や稲やエビなどの状態を確認したり、村人に研修を行っています。」

—村人とどんなことに取り組んで行きたいですか？

Ngaさん「ビンダイ郡では稲作やココナツ栽培が盛んですが、村人の暮らし向きはあまりよくありません。ここ数年、エビ養殖が大規模に行われるようになりましたが、リスクが高く、借金を抱える人も増えました。今、取り組んでいるのは、狭い面積で多様なものを作り、村人の自給を豊かにし、現金収入を増やすことです。苦しい村人の暮らしを何とか変えていくことができるよう、村人と一緒に活動に取り組んで行きたいです。」

笑顔がとっても素敵なNgaさん。村人からもベンチェ省農業普及センターやビンダイ郡農業室のスタッフからも絶大な信頼を得ています。ベンチェ省ビンダイ郡でエビ養殖とアヒル水稻同時作を実践している村人をサポートしているのもNgaさんです。これからもNgaさんに助けて頂きながら、STTの活動を実施していく予定です。Ngaさん、これからも宜しくお願いします！

地域の自然や暮らしを見つめ直すワークショップ



これまで熊本県水俣市で地域づくりに取り組んできた吉本哲郎氏やインド・西ベンガル州で持続的農業と自然資源管理を通じて村人の生活改善に取り組んできたA.S.チャタジー氏から学んだことをホアビン省タンラック郡の村人と共に少しずつ実践してきました。その核になるものは、人々が協力し、地域にあるものを活かしながら豊かで安定した食糧自給を確保し、現金収入を得ていく方法を見つけ、実践することです。まずは村人が村のこと、自分の暮らしについて見つめ直すことから出発します。その一つの方法として、子供や青年と共に村にある自然や伝統的な工芸、経済の状況を調べ、他の村人に共有し、話し合いを行うことから始めます。随時、活動の報告をしていきますので、是非、ホームページをチェックしてください！



「昔はテト(旧正月)にしか鶏肉などのご馳走を食べられなかったけど、今は毎日食べられるわ。だから、毎日がテトみたい。」

これは、ハノイで20～30代の男女数人に「今年のテトはどうだった？」と聞いた時に彼らが話してくれた言葉です。1980年代には配給制があり、家庭内には圧倒的に物資が不足していました。その頃のハノイの人々にとって、テトはご馳走が出る、大きなイベントでした。

しかし、最近はテトは特別な日ではなく、普段と変わらないと感じる人が増えているようです。確かに普通の家庭でも毎日のように鶏肉が食卓に上ります。それに、元旦でも多くのお店が営業をするようになったため、お店が全部閉まって道路が閑散としていた数年前と比べて、確かに「テト気分」は薄れます。



ところが、テトが明けて1ヶ月近く経つというのに、まだ店開きをしないところもあります。そういうお店は大抵、地方から出てきた人が切り盛りしており、テト休みがハノイの人々より長いこと、さらに、テト後に商売繁盛を祈願しにお寺巡りをしている人が多いからです。

便利さや利益を追求することで、人はどんどん忙しくなりますが、商売繁盛を祈願するためにお店を長期に休むという一見矛盾した行動も、ベトナムの中では意外と「当然のこと」として受け入れられています。お線香とお供え物を抱えて、いそいそとお寺に入っていくおばちゃん達が健在している限り、ハノイのテトはテトであり続けるでしょう。

今後の予定



2010年4月～5月	伊能、一時帰国
2010年5月～9月	アヒル水稲同時作の技術研修や交流会、在来種の稲の復元・記録事業の経験交流会や技術研修を開催。適宜、地域の自然や暮らしを見つめ直すワークショップを実施。
2010年10月	在来種の稲の復元・記録事業の評価会合
2010年11月	第一回総会を開催予定(場所は東京都内を予定しております。詳細は後日、お知らせ致します)。

皆様におねがい

- 講演のご依頼、学生さんや企業の皆さんのベトナムでのフィールド研修のご要望がございましたら、是非、ご紹介ください。
- 会員のお申し込みを頂いた後、まだ会費を振り込んで頂いてない方はお手数ですが、近日中にお振込み頂けますようお願い申し上げます。
- 本報告に掲載した記事や写真を無断で掲載・転送することはご遠慮ください。
- ご使用にならない事務機、椅子、本棚、ファックス、コンピューター、コピー機などがございましたら、info@seed-to-table.orgまでご連絡ください。宜しく願い致します。

終わりに

Seed to Table活動報告の第一号をお届けしましたが、いかがでしたか？是非、ご意見・ご感想をinfo@seed-to-table.orgまでお聞かせください。また、この報告作成にご助力頂いたSさんに心より感謝申し上げます。ありがとうございました！次号は2010年10月にお届け予定です。どうぞ宜しくお願いします！